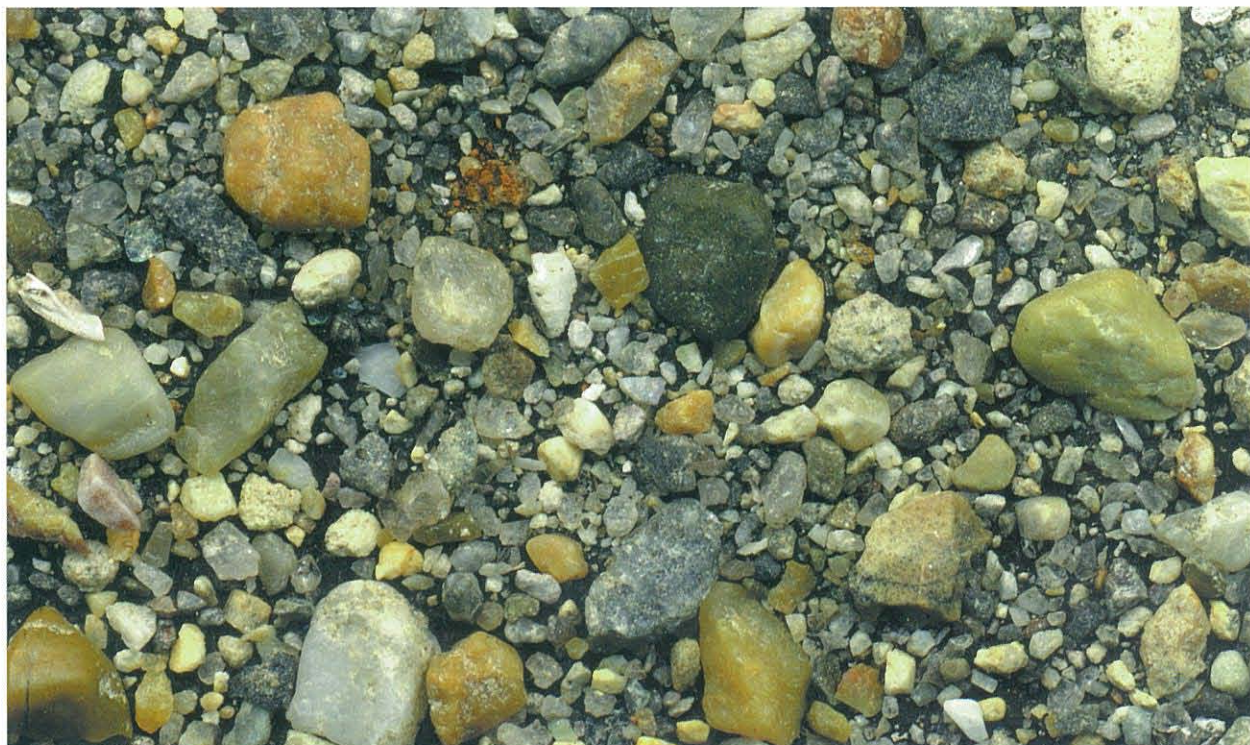


スキャナーで観察した砂の映像

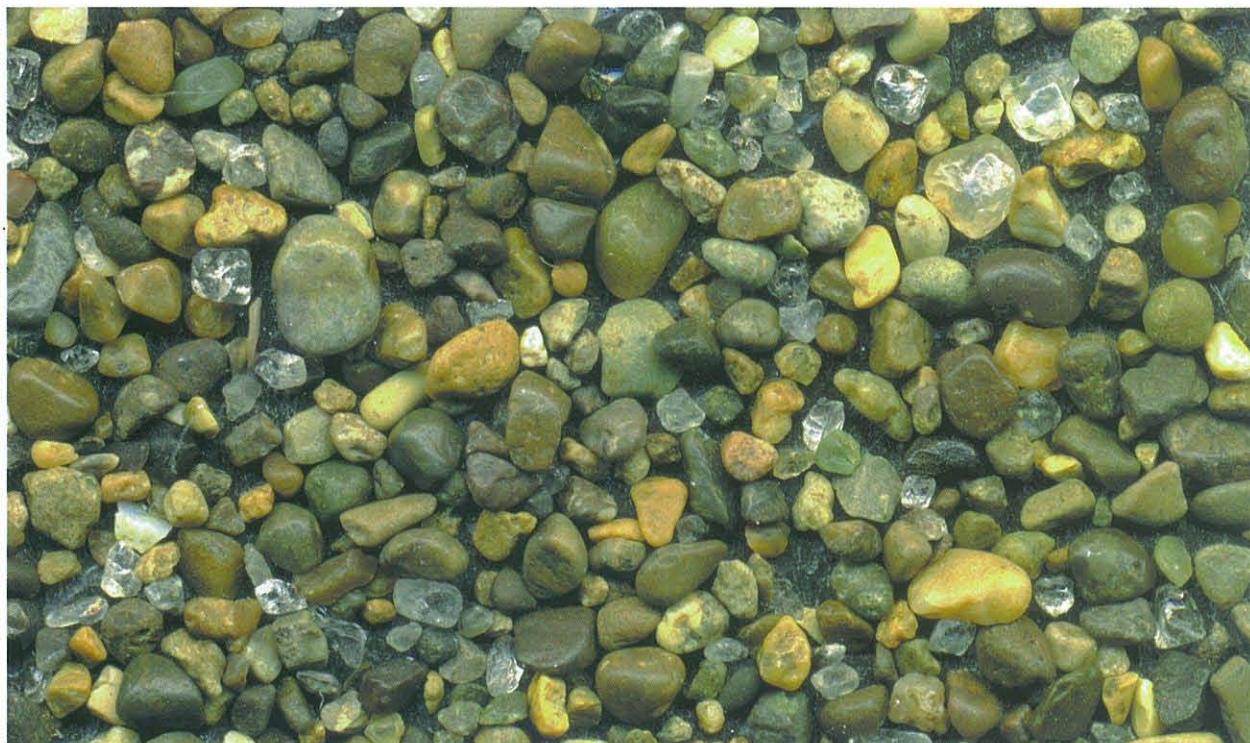
〈須藤定久〉



1. 稲藁の画像。藁の長径は約5mm、短径2.5mm、殻の表面には繊維による格子状の模様がある。格子の間隔は0.05mm前後である。



2. 河川砂の画像。木曾川中流部の河川砂である。中・古生層に由来するチャートや砂岩、花崗岩に由来する石英・長石などからなる(画面の左右が約2.8cm)。



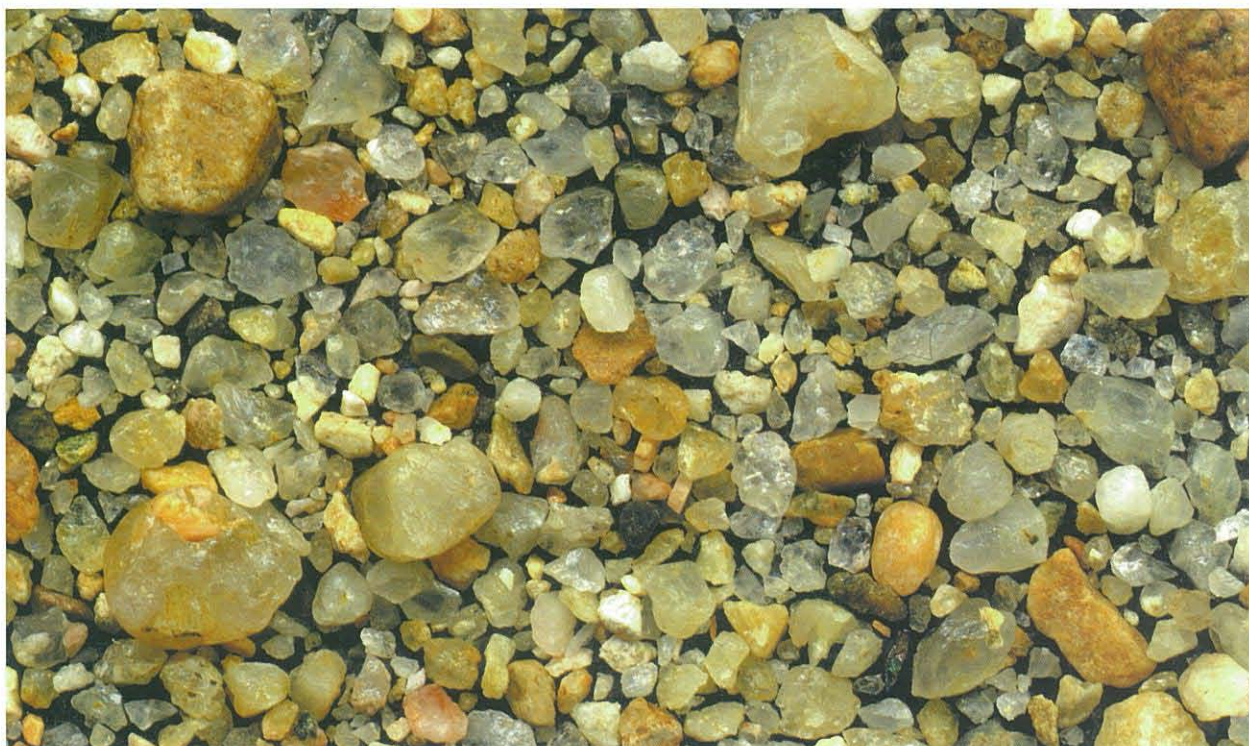
3. 海浜砂の画像。青森県の七里長浜北端部の海岸の粗砂～細礫。新第三系に由来する珪化凝灰岩などの砂礫が多く、良く円磨されている(画面の左右が約2.8cm)。



4. 海砂の画像。瀬戸内海・大三島沖で採取された海砂。瀬戸内海の砂は、円磨度が低く、花崗岩の真砂に近いのが特徴のようだ(画面の左右が約2.8cm)。



5. 砂漠砂の画像. カラハリ砂漠の赤い砂の粗流部. 良く円磨され, 独特の赤い色を呈する. 白い粒子は炭酸カルシウムからなる粒 (画面の左右が約2.8cm).



6. 輸入砂の画像. 中国福建省から輸入される砂. 河川の下流部で採取されているもので, 花崗岩に由来する粒子が多い (画面の左右が約2.8cm).



7. 砂岩碎砂の画像。青森県八戸地区で生産されたもの。碎砂は一般に角張った粒子であるが、この試料ではうまく角が取れている（画面の左右が約2.8cm）。



8. 石灰岩碎砂の画像。栃木県葛生地区産。石灰岩を砕いた碎砂は丸みを帯びた粒子が多い。しかし、小さな粒子には扁平なもの、角張ったものが多い（画面の左右が約2.8cm）。